

◆学校運営協議会の働きかけ



川本中 学校運営協議会

川本地区にある川本中学校を素晴らしいブランドとなるように、様々なアイディアやその方策を出し合い、共に、実践・挑戦する組織である。10年、20年先の川本中学校の姿に思いを込めて。



ここから、地域に根ざした川本の教育が始まる。

川本中 SPIRIT

学校概要資料

Vol-3

※ブランディング (branding)

「ブランディングとは、顧客や消費者にとって価値のあるブランドを構築するための活動である。ブランドの特徴や競合する企業・製品との違いを明確に提示することで、顧客や消費者の関心を高め、購買を促進することを目的とする。消費者との信頼関係を深めることで、ブランドの訴求力が向上し、競合他社に対して優位に立つことができる。ブランド化。」

東井先生は、「村を育てる学力」について、学校と家庭、地域が連帯してこそ身につくと考えていました。学校での指導を家庭や地域に理解してもらうこと、また家庭や地域から学校に意見を出してもらうことがなければ、結局、学校で学んだことは、学校のなかだけでしか役に立たないと考えていました。

～東井義雄 「村を育てる学力」より～

◆地域の思いを忘れずに

川本中学校は、昭和51年4月17日に埼玉県大里郡川本村立川本中学校として創立いたしました。その前年度までにあった、北中学校と南中学校が統合されて現在の場所に新設されました。

その当時の写真が、川本村役場の広報「かわもと」1976年6月号に掲載されていました。その中の記事からも、本校がいかに地元の皆様から期待されていたかを知ることができます。

また、その広報には、川本中の校章についても書かれていました。校章は、公募の中から選ばれたもので、平成51年1月27日の最終決定会議で決まったそうです。作成者は、畠山にお住まいの丸橋様で、この校章の意味は、「**神秘なる木、月桂冠で川本中を囲み、9枚の葉は、義務教育の九ヶ年を現し、さらに伸びゆく可能性を期しています。**」だそうです。本当に、地域の熱い思いで創立された学校であることに改めて、感謝いたします。

この熱き思いを受けた、私達が為すべきことは、川本中学校を常に健全で明るく生徒が伸びやかに活動する学校として維持することです。そして、「伝統と革新」という言葉をこれから生きる生徒・保護者・教師の手でしっかりと受け継ぎ、10年先・20年先の川本中学校を創造することを使命として参ります。



ふるさと
免道いしかの山
小鉦釣りしかの川
夢は今もめぐりて、
忘れがたき故郷
如何に在ます父母
恙なしや友がき
雨に風につけても
思い出する故郷
志をはたして
いつの日にか帰らん
山は青き故郷
水は清き故郷



＜ゆるぎない川本中の創造へ＞

埼玉県深谷市立川本中学校

ゆるぎない川本中学校を創る構図 ~キーワードは、「生徒は学校の鏡」~

学校医・学校歯科医・学校薬剤師（生徒の健康面での指導）

＜未来の健康を培う＞
保健・安全・食に関する指導を通じて、生涯を通じて心身ともに健康に過ごすことのできる生徒の育成を目指す。

やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ
守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ
和気あいあいとした家庭で育てば、子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる
～ドロシー・ロー・ノルト博士の『子どもが育つ魔法の言葉』より～

優しさと溢れる川本地区
保護者・地域の応援・下支え

その他の団体・組織



共有化

共助

＜めざす生徒像＞
故郷を愛し、志高く生きる川本の子どもたち
○心豊かで思いやりのある生徒
○自己実現のために、健康で粘り強い生徒
○常に挑戦する心と自己研鑽に励む生徒

公助



市教委・高校・大学ボランティア（生徒を側面から支援）

＜進路選択への力を養う＞
生徒の夢や希望を実現させるための基盤づくりの手助けを行う。

安定した生徒、そして、学校へ

大きく羽ばたく川中生

生徒が、学校の真価を創り出す（ゆるぎない川本中学校へ）

地域社会

情報提供・信頼と期待

学校教育目標

自助

知恵・学力・体力の階段
愛する母校：川本中学校



- 学校経営方針
- グラントデザイン
- 指導の重点項目
- 全教科・領域活動